

平成25年 第18回

東京都教育委員会定例会会議録

日 時：平成25年11月14日（木）午前10時02分

場 所：教育委員会室

平成25年11月14日

## 東京都教育委員会第18回定例会

### 〈議 題〉

#### 1 議 案

第84号議案

教育に関する議案に係る意見について

第85号議案

東京都公立学校長の任命について

第86号議案

東京都公立学校教員等の懲戒処分等について

#### 2 報 告 事 項

(1) 高校生書評合戦首都大会2013について

(2) 平成26年度教育庁所管事業予算見積について

(3) 東京都公立学校教員等の懲戒処分等について

|     |        |
|-----|--------|
| 委員長 | 木村 孟   |
| 委員  | 内館 牧子  |
| 委員  | 竹花 豊   |
| 委員  | 乙武 洋匡  |
| 委員  | 山口 香   |
| 委員  | 比留間 英人 |

|          |              |        |
|----------|--------------|--------|
| 事務局（説明員） | 教育長（再掲）      | 比留間 英人 |
|          | 次長           | 直原 裕   |
|          | 教育監          | 高野 敬三  |
|          | 総務部長         | 松山 英幸  |
|          | 都立学校教育部長     | 堤 雅史   |
|          | 地域教育支援部長     | 前田 哲   |
|          | 指導部長         | 金子 一彦  |
|          | 人事部長         | 加藤 裕之  |
|          | 福利厚生部長       | 高畑 崇久  |
|          | 教育政策担当部長     | 白川 敦   |
|          | 教育改革推進担当部長   | 出張 吉訓  |
|          | 特別支援教育推進担当部長 | 廣瀬 丈久  |
|          | 全国高校総体推進担当部長 | 鯨岡 廣隆  |
|          | 人事企画担当部長     | 粉川 貴司  |
| （書記）     | 総務部教育政策課長    | 壹貫田 剛史 |

## 開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【委員長】 ただ今から、平成25年第18回定例会を開会します。

まず、取材・傍聴関係でございます。報道関係は、毎日新聞社外6社、合計7社から取材の申込みがございました。個人は、合計12名の方から傍聴の申込みがございました。許可してもよろしゅうございますか。——〈異議なし〉——それでは、入室していただいでください。速やかに入室してください。

### 会 議 録 署 名 人

【委員長】 本日の会議録署名人は、乙武委員にお願いします。

### 前々回の会議録

【委員長】 前々回10月10日開催の第16回定例会会議録については、先日お配りいたしまして御覧いただいたと存じますので、よろしければこの場で御承認を賜りたいと存じますが、よろしゅうございますか。——〈異議なし〉——それでは、第16回定例会の会議録につきましては御承認いただきました。

前回10月24日開催の第17回定例会会議録が机上に配布されていますので、次回までに御覧いただき、次回の定例会で御承認いただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

次に、非公開の決定です。本日の教育委員会の議題のうち、第84号議案から第86号議案まで及び報告事項（3）につきましては、人事等に関する案件ですので非公開としたいと存じますが、よろしゅうございますか。——〈異議なし〉——それでは、この件について、そのように取り扱います。

（東京都教育委員会傍聴人規則第7条第1項の規定に基づき、委員長より3名に退場

を命令)

【総務部長】 委員長、よろしいでしょうか。

【委員長】 はい、どうぞ。

【総務部長】 ただ今退場命令が3名の傍聴人に下されましたけれども、そのうち過日の教育委員会定例会において議事を妨害したとして退場を命じられた者が~~2名~~3名※含まれております。これらの者が次回以降の教育委員会の傍聴を希望した場合には、議事を妨害しない旨の誓約書を提出させることとし、仮に誓約書が提出されない場合には、傍聴人規則第2条第7号の規定、「その他議事を妨害することを疑うに足りる顕著な事情が認められる者」として、教育委員会傍聴を認めないことが適当と考えます。

※後日、3名であることを確認し、平成25年11月28日の第19回定例会において2名から3名に訂正することについて了承を得ている。

【竹花委員】 今回は、彼らは誓約書を書いて入ってきたんですか。

【総務部長】 書いておりません。誓約書を書いてという手続はございません。

【竹花委員】 今の文面について、もう少し工夫を加えてください。妨害をするよなという中身がありましたけれども、彼らは、自らは妨害をしていると言っていないわけです。質問しているだけだと言っているんです。それはまた解釈の違いを生じる可能性がありますので、委員長において制止をされるような事項、要するにそこが問題にならないような言い方、書き方をして誓約書を書いてもらってください。よろしくをお願いします。

【委員長】 よろしゅうございますね。では、そういうふうに進めます。

(東京都教育委員会傍聴人規則第7条第1項の規定に基づき、委員長より1名に退場を命令)

## 報 告

(1) 高校生書評合戦首都大会2013について

【委員長】 それでは、報告事項から参ります。報告事項（１）高校生書評合戦首都大会2013について、説明を、指導部長、よろしくお願いします。

【指導部長】 高校生書評合戦首都大会2013でございますけれども、これは東京都の「言葉の力」再生プロジェクトの一環として、昨年度から実施しているものでございます。昨年度は東京都立高校のみで実施いたしました。今回は東京都をはじめ埼玉県、千葉県、神奈川県、そして東京都と自治体間連携で様々な交流活動を実施しております。夕張市からも予選を勝ち抜いた生徒が集まって書評合戦を行い、チャンプ本を決定するというイベントでございます。

まず、書評合戦とはどういうものかということでございますけれども、5人ぐらいのグループで、各自、面白いと思った本を持って集まります。自らの体験や出来事などを交えて、5分間でその本を紹介します。それを聞いた後、今度は聴衆から質問を行い、2～3分ディスカッションを行います。最後に、その5人ないし6人が発表した本の中で、【4】ではうちわを上げておりますけれども、一番読みたくなった本を選んで、そのグループのチャンプ本を決めるというものでございます。

これにつきましては、右側書いてございますとおり、教育的効果の高いものでございまして、まず一つは本を読むようになる。さらに、5分間でその本を紹介するというので、これはなかなか難しい発表になりまして、効果的に表現するというので様々な力の育成につながります。また、発表を聞いた後、質問する力も、聞いていて何を質問するかということで、聴衆にとっても有効な活動であります。そして何よりも、この書評合戦というのはコミュニケーションの力の育成につながるということで、「本を知って人を知る。人を知って本を知る」というのが、この書評合戦のキーワードになってございます。

左側ですけれども、予選の結果をまとめてございます。3県と夕張市も含めました参加校数ですが、予選は286校、8,603名の高校生が発表いたしました。その発表を延べ1万5,606名の聴衆が聞いたということでございます。

東京都ではどのように予選を行ったかといいますと、まず6月から8月にかけて193校全校で校内予選を実施して、代表の270名が都大会に進出、東京都大会では発表者が270名から261名になっておりますが、これは島しょ地区の学校で来れないと

か、あるいは当日、体調を崩して参加できなかった高校生を除いた、184校、261名の都立高校生をはじめ、国立、私立高校の生徒の参加を得て東京都大会を行いました。結果、東京都の代表13名は、都立高校が10名、私立高校が3名ということになりました。また、3県、夕張市でもそれぞれ県予選を行いまして、17名の代表を決定したところでございます。

右側にいつていただきまして、準決勝・決勝でございますが、来週の土曜日、11月23日の午後にベルサール秋葉原というところで行います。

30名はどういう生徒かといいますと、2枚目にまとめてございます。それぞれの学校名、出場する生徒の氏名、発表する本、著者、出版社がまとめてございます。これを見ていただきますと、小説でもライトノベル、あるいはミステリー系の本が多くございまして、中には2番目の「ダンゴムシに心はあるのか」、あるいは十文字高校の高橋さんは「嫌われものほど美しい：ゴキブリから寄生虫まで」といった生物エッセイ、科学的な題材を扱ったものが多く見られるところでございます。中には「ファウスト」「ハムレット」といった古典もございまして、こういったものは割と少ない傾向でございます。この30名の生徒によって11月23日に高校生書評合戦首都大会2013を実施いたします。

当日のスケジュールにつきましては、ここに書いてございますが、女優であり、脚本家、作家でもある中江有里さんをゲストとして招きまして、トークショーからオープニングに入りまして、次にビブリオバトル普及委員会理事であります稲川綾乃さん、この方には実は昨年度から私どもは書評合戦の指導をいただいておりますが、深川高校での予選の様子などについて紹介していただいた後、準決勝、そして夕張高校からは書評合戦で発表する生徒以外に、吹奏楽部の生徒も招待しておりまして、ここで演奏のアトラクションを行い、決勝、クロージングと進めてまいりたいと思っております。

説明は以上でございます。

**【委員長】** ありがとうございます。ただ今の説明に対しまして、何か御質問・御意見はございますか。

**【竹花委員】** これは東京都教育委員会も主催者になっているようですけども、

ほかの教育委員会の皆さん方がこれに加わってきたというのはどういう経緯ですか。

【指導部長】 これは良い取組ですので、各県の教育委員会に参加を呼び掛けまして、生徒の参加をお願いしたところでございます。

【竹花委員】 分かりました。ありがとうございます。首都決戦というのは24日ですか。

【指導部長】 お手元にチラシを配布させていただいておりますが、下の段の24日（日曜日）は、全国の大学生がビブリオバトル（書評合戦）を行う決戦でございます。高校生の部は前日の11月23日の午後でございます。

【竹花委員】 大学生の部も東京都教育委員会が主催しているのですか。そうではないのですか。

【指導部長】 大学生の部は、東京都、文字・活字文化推進機構が中心となって進めてございます。

【竹花委員】 23日、時間があれば決勝大会ぐらいは見に行ってみたいと思うけれども、内館委員、本を読んでいないと僕らは行っても分かりませんか。

【内館委員】 感想で、高校生が読むには面白い本だということで結構ですけども、ちょっとライト過ぎますね。きっといろいろなものを読んで、その中でこれが面白かった。特に5分間でまとめて話すには、これは自信があるということを出したものだろーと思いますけれども、私は、小説などでも、もう少し違うものも幅広く入っているかなと思ったのですが、簡単にすぐに読める本は、いつでも、寝転がりながらでも読めるわけですし、年をとってからでも読めるわけですから、この時代にしか読めないとか、この時代に読んでおくべきものも、指導するというほど大げさではなくても、何らかの形で少しつついておく方がいいかなと、この一覧を見たときに思いました。突然ゲーテとかシェークスピアも出てくるのですけれども、日本の文学などでも明治・大正期のものとか、つまらないと思っても構わないので、読んでおいてほしいという気がいたしました。

【委員長】 これは大変な激戦ですね。東京都の場合ですと、約8,000名の中から270名が東京都大会に進出して、最終的には13名しか選ばれないということですね。下の埼玉県、千葉県、神奈川県、夕張市については、どのぐらいの発表者がいたので



しょうか。分かりますか。

【指導部長】 3県、夕張市からの参加校は合わせて62校ございました。

【委員長】 三つ合わせてですか。

【指導部長】 はい。埼玉県、千葉県、神奈川県、夕張市を合わせまして、参加した学校は62校、発表した生徒は149名で、そのうち17名が準決勝に進出ということで、約10倍の難関を突破して進出という状況でございます。

【委員長】 東京都の場合は10倍どころではない。800名に1人ぐらいですね。これを突破するのは大変ですね。

【内館委員】 でも、皆さんこれだけ関心があるということですよ。それはすごいことですよ。

【指導部長】 この大会の前に指導する先生方も集めまして、先生方にも書評合戦とはどういうものか都庁で研修会を行いました。そこで、ああ、こういうものなのだと分かって、先生方が学校で指導されておりますので、学校を挙げて取り組んでいただいた成果かと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

私も読んでいないので、内容を知らずに申し訳ないのですが、少し軽いなという気がします。しかし、本を読むということは悪いことではないので、よしとしないといけないのかなと思います。

3番目の人は、サンテグジュペリの英語の本を読んだのですか。

【指導部長】 訳してある英語の本を読んで紹介したということです。

【委員長】 分かりました。

ほかによろしゅうございますか。——〈異議なし〉——それでは、この件については報告として承りました。いずれにしても、非常にいいプロジェクトだと私は個人的に思います。

## (2) 平成26年度教育庁所管事業予算見積について

【委員長】 次は、報告事項(2)平成26年度教育庁所管事業予算見積について、

説明を、教育政策担当部長、よろしく申し上げます。

【教育政策担当部長】 それでは、報告資料（２）を御覧いただきたいと存じます。「平成26年度教育庁所管事業予算見積について」でございます。

この件につきましては、これまで各事業につきまして様々な御意見を頂きまして、それを反映させて11月7日に予算発表という形で、教育庁も含めまして各局がどういう要求をしているかを東京都全体として公表したものでございます。1月上旬に知事査定を経まして、1月中に原案発表となります。今後、財務局と折衝しまして数字が動くということでございますが、現在の教育庁としての見積額でございます。

まず、Ⅰの「歳入歳出予算」を御覧ください。歳出でございますが、7,559億8,900万円でございます。増減は非常に少なく、0.0パーセントの増減率となっております。このうち、教育庁の予算は給与関係費が大半でございますが、事業費が8.2パーセントの減となっております。都立学校に関わります用地費が110億円ほど減となっております。

その下のⅡの「定数見積増減」でございますが、小学校、中学校、高等学校につきましては、児童・生徒数の増に伴いまして、小学校でいきますと、増減の欄を御覧いただきますと222人の増、中学校は71人の増、高等学校が100人の増、特別支援学校が24人の増でございます。学校の定数といたしましては、合計で417人の増となっております。定数全体は6万3,519人となっております。

内訳を御覧いただければと思いますが、小学校につきましては、後ほど御説明いたしますが、指導方法工夫改善加配が26人の増でございます。また、高等学校につきましては、真ん中にごございますように、国際バカロレアの認定の取得に向けた取組ということで、これは国際高校で5人の増となっております。

なお、一番下に事務局定数がございますが、これは前年度と同じ数字でございます。671人でございます。

2ページを御覧ください。主に新規事業等を御説明申し上げます。

まず、1の「学びの基礎を徹底する」でございますが、児童・生徒の学力向上施策の充実ということで、1番目にごございますように、小中学校では小5・中2を対象に、これは悉皆しつぱいでございますが、都独自の学力調査を引き続き実施してまいります。

一つ飛ばしまして、先ほど申し上げましたように、小学校全校で3年生から6年生の算数の授業におきまして、習熟度別の授業ができるように各学校に一人ずつ、1,269人から1,295人、26人の増で、このほかに大規模校等につきましては、各学校加配一人では足りませんので、非常勤講師、特にOBの活用を図りまして、全ての学校で習熟度別の授業が展開できるように予算要求をしているものでございます。

その下でございますが、都立高校におきましては、学力スタンダードに基づきまして、到達度を確認しながら学力調査等を実施していくということで、平成26年度は第2学年において先行実施をしていこうということでございます。

その下が新規事業でございますが、進学指導重点校等に外部専門家によりまして進学指導のコンサルティングを導入していくということでございます。

続きまして、2の「個々の能力を最大限に伸ばす」でございますが、先ほど御説明申し上げました高校生書評合戦首都大会を引き続き来年度も進めていくものでございます。

そのほか、理数教育の推進でございますが、小中学校におきます理数フロンティア校、東京ジュニア科学塾、中学生科学コンテスト、それから都立高校におきましては、主に部活動ということでございますが、理数教育チャレンジ団体を指定して、理数教育の推進を図ってまいります。

その下でございますが、都立小中高一貫教育校でございます。12年間の一貫教育の学習カリキュラムを検討いたしまして、平成29年度の開校を目指しております。

その下でございますが、国際社会で活躍する日本人の育成でございます。1番目の丸が次世代リーダー育成道場ございまして、引き続き都立高校生200人を海外に留学させていきたいということでございます。

その下で、都立国際高校におきまして国際バカロレアの認定の取得に向けた取組を推進してまいります。

その下が新規事業でございますが、国際協力機構（JICA）が派遣しております青年海外協力隊の方々が派遣前に国内で研修をしておりますので、この部分を都立高校生向けにアレンジしていただきまして、新たなプログラムとして開発して実施していきたいと考えてございます。

右上を御覧いただきたいと思います。英語教育の充実でございます。JETプログラムによりまして外国人英語指導者の配置で、英語のみならず、例えば部活動ですとか、あるいは海外での生活様式ですとか、そういったことで、内向き志向の打破ということも含めまして、まずは100人、将来的には都立高校全校に配置しますので、約200人規模にしていきたいと考えております。

その次の3の「豊かな人間性を培い、規範意識を高める」でございますが、道德教育の推進と、その下、都立高校では現在「奉仕」を教科化しておりますが、これにキャリア教育、道德教育を一体化した新教科を進めていきたいと考えてございます。

続きまして、4の「社会の変化に対応できる力を高める」でございますが、引き続きインターネットの適正な利用、このほか、その下でございますが、各企業、主にメーカー等でございますが、いろいろな体験型の講座をしておりますので、これを一堂に集めて実施して、体験型講座といたしまして、キャリア教育の普及を図っていききたいと考えてございます。

その下の5の「体を鍛える」でございますが、体力向上施策では、東京都統一の体力テストを引き続き実施いたしますとともに、第6回中学生「東京駅伝」大会を開催いたします。

そのほか、オリンピック教育の推進でございますが、現在、スポーツ教育推進校を300校指定しております。これをオリンピック教育推進校といたしまして、特にパラリンピックの普及も考慮いたしまして特別支援学校も含め、全校種から300校を指定いたしまして、今後、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、全児童・生徒が何かしら関わられるような取組を考えていきたいと考えてございます。

その下は、2016年の東京招致の時には「オリンピック学習読本」を作りましたけれども、そのような形の都独自のオリンピック教育補助教材を作成してまいります。

また、オリンピック・パラリンピアンへの派遣でございますが、これは全区市町村に拡大していきたいと考えてございます。

3ページを御覧いただきたいと存じます。来年度、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を8月1日以降開催いたします。東京都は総合開会式等を行いまして、7競技を実施いたします。この経費を見積ってございます。

その下の防災教育でございますが、全都立高校での一泊二日の校内での宿泊防災訓練、防災関係機関と連携した二泊三日の宿泊防災訓練を引き続き実施してまいります。

その下、「教員の資質・能力を高める」でございますが、まず第1は新規事業でございます。体罰の根絶に向けた取組の推進で、様々な研修の中、2番目でございます。感情を抑え、言葉で指導する力を高める特別研修プログラム、いわゆるアンガー・マネジメント・コントロールの開発・実施をしていきたいと考えてございます。

その下の若手教員の育成でございますが、3番目でございます。採用3年目、これは全員でございます。中学・高校の英語科の教員は都内で3,000人ほどいるわけですが、毎年200人程度を採用しております。3年目の教員につきましては、3か月間海外に派遣いたしまして、例えば大学での英語教授法、あるいは現地校での授業で英語の指導力、あるいは一人現地で頑張る生活をしていくということで育成を図っていききたいと考えてございます。

そのほか、メンタルヘルス対策、それから教育管理職確保対策といたしまして学校リーダー育成プログラムを実施してまいります。

続きまして、8の「質の高い教育環境を整える」でございます。東京都特別支援教育推進計画の第三次実施計画を引き続き推進してまいります。

右上でございますが、病院・施設内分教室等、これは現在、九つの分教室、あるいは17校におきまして、教員が病院等を訪問して授業等指導を行うわけですが、その際にタブレット端末を導入いたしまして、通信機能も含めまして教育の充実を図っていききたいということでございます。

その下でございますが、特別支援学校を2校開校いたします。

その下でございます。いじめに関する総合対策の実施でございますが、今年度スクールカウンセラーを全校配置したわけですが、小5、中1あるいは高1の段階で、全児童・生徒を対象に面接を実施できるように拡充を図るものでございます。

それから、児童虐待とか、あるいは家庭での様々な問題に対応するために、社会福祉の経験がある方をスクールソーシャルワーカーといたしまして、学校のみならず家庭にも訪問できるという取組でございまして、これを全区市町村に配置ができるよう

に拡大をしていくものでございます。

その下でございますが、生活指導等の担当に、いじめ問題に適応した研修を新たに実施します。また、法教育の観点からいじめ問題解決に向けたDVDの作成をしております。

その下でございますが、非構造部材の耐震化、校庭芝生化の推進を引き続き図ってまいります。

9の「家庭の教育力向上を図る」ということでございますが、1番目でございますように、家庭と子供の支援員、スーパーバイザーを配置してまいります。

その下、10の「地域・社会の教育力向上を図る」でございますが、学校支援ボランティア推進協議会の設置促進、放課後子供教室の拡充を図ってまいるところでございます。

説明は以上でございます。来年度このような形で予算の見積りをしているところでございます。よろしくお願いいたします。

**【委員長】** ありがとうございます。いかがでございましょうか。ただ今の説明に対しまして何か御質問・御意見はございますか。

**【内館委員】** 全てに手が届くようになっていて、大変納得できました。それで、一つ御質問ですが、「個々の能力を最大限に伸ばす」というところで、国際社会で活躍する日本人の育成の一番上の丸に、事前の学習で、我が国の歴史や伝統文化に関する知識を身に付けるようにした都立高校生ということですが、これはどのくらいの期間、どこで何を教えるのか、また誰が教えるのかということを知りたいのです。

**【教育政策担当部長】** 基本的には、例えば大学の先生ですとか外部の方を呼んでということでございます。

**【内館委員】** 専門家。

**【教育政策担当部長】** はい。

**【指導部長】** 大体8月からこの時期に実施しておりまして、例えば都内の史跡とか、歴史的な価値のある建物ですとか、江戸時代の印刷の技術ですとか、専門家のところへ行きまして体験的に学習するといった取組を実施してございます。とにかく海外へ行って、東京はどのような歴史のあるところなのかということを目に付けるため

に、実際に行って見るという体験的な取組を進めてございます。

【内館委員】 どのくらいの期間やるのですか。

【指導部長】 回数にしますと、1日単位で行動します回を3回ほど設定してございます。

【内館委員】 今伺っていると、それは我が国の歴史や伝統文化というよりは、東京都の歴史ということですか。

【指導部長】 「江戸から東京へ」という本がございまして、「江戸から東京へ」を基に、日本の歴史の中で東京の果たした役割ですとか価値にまつわるものを研修するという取組をしてございます。先日も中央図書館へ行きまして、なかなか見られないのですけれども、中央図書館に保存されている江戸時代から明治、大正の様々な印刷物を見させていただくなどの活動も行ったところでございます。

【内館委員】 もしかしたら次回でも質問するかもしれませんが、分かりました。

【竹花委員】 これまでの教育委員会でもいろいろな御意見を申し上げてきたことがうまく反映されて、現下の公立学校における教育の様々な課題を克服するために、新しい施策を含めて非常に目配りがなされた予算案ではないかと感じます。とりわけ今広がっているといえますか、我々が新しく気が付いた子供たちの学力の幅が非常に広いという問題について、とりわけ基本的な問題について理解が進んでいない子供たちに対して、教える側の体制を強化して、一部の教科について習熟度別授業等の形で格段の取組を強化していこうという点については、一つの大きな新しい試みでもあります。その点でも非常に大事な予算案であろうと思います。

また、1から10までの表題には掲げられておりませんが、国際化に対応した様々な新たな施策が設けられていることも非常にいいものであろうと思います。「国際社会で活躍する日本人の育成」という言葉で言われております項目でありますとか、あるいは「オリンピック教育の推進」というところで語られているような事柄が、しっかりと新たなものとして盛り込まれて進められていくということについて、これも非常に大きなものであろうと思います。

さらに、かねてから、社会人として必要な基礎力を公立学校の教育の中でしっかりと身に付けてもらおうということでやってきたわけでありましてけれども、キャリア教

育を含めて、地域社会との連携ですとか、そうした問題についても目配りがなされていると思います。

また、いろいろ問題とされてきた体罰ですとか、いじめの問題についても、その対応を行っていく予算が計上されているわけでございまして、そうした点でも非常に目配りがなされた予算案ではないかと思います。

問題は、これがちゃんと予算として認められることでありまして、是非とも事務方としてもしっかりと説明をしていただきたいと思いますし、教育委員会としても必要があればそれなりの対応を取りたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

【山口委員】     もしかしたら前にも伺ったかもしれないのですが、耐震化の推進が平成27年度までの完了に向けてということで予算組みがされているのですが、学校において安心・安全を守るといのは最も重要な部分だと思います。平成27年度までに完了するということは、今の時点で安全ではないというのではなくて、より安全にという理解で、どのような計画なのか、私は不勉強で分からないので教えていただければと思います。

【教育政策担当部長】     建物本体、躯体といいますけれども、例えば校舎ですとか体育館は100パーセントに近い状況で耐震化は済んでおります。前回の東日本大震災のときに避難所となりました体育館に、例えばバスケットのゴールですとか照明の器具が吊設置されておりますけれども、それが落下をしたら非常に危険であるということでございます。非構造部材の耐震化といいますのは、そういった吊り下がっている本体以外の部分、例えば外壁ですとか、窓ガラスですとか、そういったものの耐震化をしていこうということでございます。これは東日本大震災で実は若干計画が遅れてしまった関係がございますので、平成27年度までになっておりますけれども、基本的には、建物本体はほぼ100パーセント大丈夫でございます。ただ、統廃合の計画があるところは少し遅れておりますけれども、基本的には、都内では公立学校は100パーセント耐震化が終わっておりますので、今度は更に非構造部材という本体以外の部分の耐震化を進めていくというものでございます。

【山口委員】     分かりました。ただ、災害というのはいつ起こるかわからなくて、生徒たちが活動中に非構造部材が落ちてきたりという危険性も当然あるわけで、学校



自身は、こういった危険があるということは分かっているわけですね。

【教育政策担当部長】 特に区市町村立の学校でいきますと、区市町村の教育委員会に建築の専門家というのはなかなかいないものですから、私どもからアドバイザーを紹介したりですとか、今現在、文部科学省から通知が出ておまして、どこどこを目視、目で点検してくださいというところまではできておりますけれども、更にそれ以上のところをどうするかということは、今後、これもまず調査をして、どういう工法が必要で、何をすればいいかを進めていくということでございます。

【山口委員】 学校の先生方がそれを分かっていると、何かが起きたときに、避難誘導の際に安全をより確保できるのかなと思います。平成27年度までに完成されるということなので、その間の期間はそういったことを先生方にも是非周知していただければと思います。

【教育政策担当部長】 ありがとうございます。

【乙武委員】 資料の3枚目の「9 家庭の教育力向上を図る」の一つ目の四角ですが、「家庭と子供の支援員」を配置というところの予算は、具体的に人件費として見込んでいるのか、それとも違う形での予算なのか。

【予算担当課長】 お答えいたします。主に人件費でございます。家庭と子供の支援員に係る部分の人件費が中心になっております。

【乙武委員】 ありがとうございます。

【委員長】 直近の全国学力・学習状況調査で、東京都にとって非常に画期的なことが起きました。これまで中学生の成績がどうしても全国平均を上回らなかった。全国平均でいいということではないのですが。我々いろいろなことをやってきたのですが、効果が出ないということで、私、正直なところかなりいらいらしておりました。今回の東京都の中学生の結果は、ある意味では大変なことで、国語A、B、数学A、Bのうちの一つだけが全国平均と同じだったのですが、後は全て全国平均を上回りました。しかも、かなり有意差を持って上回っているということで、私は正直言ってびっくりしました。我田引水になるかもしれませんが、我々がいろいろなことをやってきた成果がやっと出たのではないかと思います。竹花委員の御発言のように、引き続き目配りをして関連する予算案を作っていただきたいと思います。

国際バカロレア試験について質問があります。私は国際バカロレアの文部科学省の委員をしていますので興味があるのですが、この100人というのは平成26年度から高等学校に入学させるのですか。

【教育政策担当部長】 国際バカロレアでございますか。

【委員長】 1 ページ目の学校定数のところに国際バカロレアの生徒数増、100人とありますよね。生徒数（学年進行・学級増）、ほかもあるのでしょうかけれども、国際バカロレアの認定の取得に向けた取組で生徒はまた増えるわけではないのですね。

【教育政策担当部長】 生徒自体は増えません。

【委員長】 現在の1年生から始めるのですか。

【教育政策担当部長】 現在の前期募集の160人の枠の中で、25人のコースを作るということでございます。ただし、非常にきめ細かい授業を行いますので、その部分での教員の増が5人ということでございます。

【委員長】 卒業するのが平成30年ですね。

【教育政策担当部長】 平成30年の春に卒業しまして、その年の秋に海外の大学を受験するということです。

【委員長】 分かりました。

それから、細かいことで恐縮ですが、次のページの1の丸の2番目の都立高校のところで、進学指導重点校等に外部専門家による進学指導コンサルティングということが書いてあります。外部指導家というのはどういう方ですか。分かりますか。

【教育政策担当部長】 進学塾の方です。

【委員長】 それ以外に人材がないため、そこへお願いするということですね。分かりました。

それから、2の「個々の能力を最大限に伸ばす」で、理数教育の推進の二つ目の黒ポツの東京ジュニア科学塾、これは大変結構な取組だと思いますが、対象者はどのぐらいですか。

【教育政策担当部長】 先般もう少し増やすようにと言われたのですが、今、40人で計画をしております。

【予算担当課長】 来年度の予算では増やす内容にしております……。

【委員長】 今年度は40人。

【予算担当課長】 今年度40人ですけれども、来年度は200人、かつ6回の講座で、延べで言いますと1,200人が参加できるような形での要求をしております。

【委員長】 分かりました。どうもありがとうございました。

それから、国際社会で活躍する日本人の育成のところの2行目、1期生の成果発信事業、これは大変重要なことだと思いますけれども、どういう形にするか具体的にある程度検討されていますか。

【指導部長】 この12月に、現在オーストラリアに1年間行っている生徒がおりまして、その生徒がそれぞれどういう勉強をしてきたかということ、これから行こうとする高校生、中学生、あるいは小学生へも対象を拡大しまして報告会を実施する予定でございます。

【委員長】 その生徒に文章を書いてもらって、それを印刷するとか、そういうことではなくて、実際に生の話を聞いてもらうということですね。

【指導部長】 はい、そうです。

【委員長】 大変結構だと思います。

最後ですが、先ほど山口委員が御質問になりました非構造部材の件ですが、耐震化は大体終わっていると私も認識しております。専門的な質問になって恐縮ですが、東京都の場合は、I s 値0.4でやっているのですか。

【教育政策担当部長】 0.3です。

【委員長】 0.3でしたか。それを国は今、0.7にしようとしているのですけれども……。

【教育政策担当部長】 失礼しました。0.7です。

【委員長】 既に東京都は0.7になっているわけですね。ちなみに、前にも御説明しましたけれども、I s 値というのは、震度だとか構造体の作り方だとか、そういうものを全部考慮した計算式です。0.4だと中くらいの強い地震には平気だということで、0.4を目標にやっていたのですが、最近、国はこれを0.7に格上げしたのですが、東京都の方は既にやっておられます。国にはまだ0.7に達していない大学があります。分かりました。ありがとうございました。

【内館委員】 先ほどの件です。1期生の成果発信によってまたいろいろ得るところもあると思いますけれども、私は、事前学習で我が国の歴史や伝統文化に関する知識を何ゆえにやるのかと考えたときに、恐らく海外で自国をある程度語れるようにするという意味だろうと思います。それから、日本人や日本の国に対する誇りとか、矜持<sup>きやうじ</sup>とか、そういったものも養成ということであるとすると、授業でどういふことをやったらいいのかという講義内容をもっと熟慮しないと、3日間の遠足みたいなことで終わってしまったのではどうなのだろうかという気がするのですけれども、次回もう少しお考えいただいた方がいいのではないかと。1期生の成果発信の中で、もしかしたら、こういうことが役に立ったとかということが案外出てくるかもしれませんので、それを参考にしながら考えた方がいいのではないかと思います。これは、どうももったいないなという気がするのです。

【指導部長】 先ほど体験的な学習を取り入れてというお話をしましたけれども、もちろん、歴史とか伝統について大学の先生の講義を受けたり、自分たちで調べたものを発表した後に、東京都の史跡ですとか、そういったものについての見学も含めて行ってございます。

【内館委員】 その前の大学の先生たちからの伝統文化の講義というのはどういうことをやるのですか。

【教育長】 内館委員、それでは、具体的に何をやっているかをペーパーにして、具体的な内容が入った形で、御覧いただいて分かるように御説明させていただきたいと思えます。

【委員長】 内館委員の御心配はごもっともだと思いますが、この線の事前研修については、日本は割合ノウハウを持っています。例えばJICA、サンケイスカラシップなどが、派遣する専門家、留学生のために事前研修を行っています。このようなものをフルに3日間やれば、相当吸収してもらえらると思えます。もちろんJICAとか外務省はもっと長くやりますが、その辺も含めて、比留間教育長、何か他に御発言がありますか。

何かありますか。

【予算担当課長】 若干の補足をさせていただきますと、あと能を見てもらったり

とか、歌舞伎を見てもらったりとか、そういう伝統文化の方でも取組をやっておりますので、その辺を是非一度御説明させていただきたいと思います。

【委員長】 是非お願いします。

【教育政策担当部長】 200人の生徒は、それぞれがホームステイをしまして、この前、山口委員からも御指摘があったように、グループにならないように一人ずつ家庭に行く。その家庭の方も、日本人の高校生が留学生として来るわけですから、やはりそれに答えられるようなちゃんとしたアイデンティティーを持たせる。単に英語だけではなくて、海外での生活、一人で暮らしていく、こういったことを目的にしておりますし、非常に志の高い生徒が集まっていますので、中身をもっと充実させていくという点では、御意見を頂いて、また御説明に上がります。

【内館委員】 分かりました。

【竹花委員】 もう何回も私も御説明を受けて、今日こういう発言をするのも初めてで恐縮ですけれども、公立学校における教育というのは、都の教育委員会での予算もありますが、区市町村の教育委員会での予算も相まって、公立学校における公教育が充実したものになっていくのだろうと思います。区市町村においても、同じようなテンポで来年度予算について準備を進めているだろうと思いますけれども、教育庁の今日固まる予算の中身については、区市町村には、東京都教育委員会はこういうことを考えている、これを参考にして、皆さんは我々の足りないところをうまく補充するなり、あるいはもっと充実するなり、そういう予算にしてくださいというお願いはするものですか。

【教育政策担当部長】 個々の事業についてはもちろんやりますし、逆に、我々が予算要求の見積りを始める前に、各区市町村から都としてこういう予算を付けてくれという要望は、代表の教育長の方から頂いております。それを踏まえて、東京都でできること、あるいは東京都を經由して国へ要望しております。ただ、委員がおっしゃったように、個々の事業を全部まとめてという形では、教育施策連絡会の時に、こういう予算が付きましたということと、今後、予算が固まった段階で主要施策を作りまして、それを区市町村に説明しております。

【竹花委員】 予算を作る段階で、今回の新規施策もいろいろあるわけですがけれど

も、個別の事業についての説明ではなくて、東京都がどういう視点で予算全体を作ろうとしているのかということについても、少し区市町村の教育委員会に説明をして、全体として公教育が斉一性のあるといたしますか、全部斉一性があることは必要ありませんが、それなりの流れに込えられるような形にする努力を今までやっていないのであれば、そんなに手数のかかることではありませんので、少し考えてみていただけませんかでしょうか。

【教育政策担当部長】 その辺は十分周知を図るとともに、調整していきたいと思います。

【総務部長】 例年、1月の予算原案発表を受けまして、各教育長会に出向きまして説明してございます。

【竹花委員】 それでは遅いのではないかとというのが僕の指摘です。それは固まった段階ですから。もちろん、我々が予算要求するというのは、全て駄目になるというわけでは決してないわけで、教育委員会がこういう形で要求すれば大方は認められていくという前提の基に、各区市町村の教育委員会の予算の策定の段階でも、そういうことを参考にして考えてもらえないかというふうにする方がいいのではないかと僕は思いますけれども、いかがでしょうか。

【教育政策担当部長】 分かりました。例えばスクールソーシャルワーカーにつきましても、教育長レベルで、実は配置したいのだけれども、人材がないですとか、拠点校方式、巡回方式、いろいろな方式があるけれども、どれがいいだろうかということは御相談いただいておりますし、我々もそれを受けまして、では、区市町村に配置できるように予算を要求していこうというふうにしております。今後もそういったことで区市町村と詰めていきたいと思っております。

【竹花委員】 まだ僕の言っていることを捉えてもらっていない。東京都教育委員会が今度の予算の案を作るときにいろいろな議論をしてきているわけで、そのコンセプトみたいなものが反映されているわけですね。残念ながら、項目としてはそれが少し見にくいところもあるけれども、今そこが少し分かりにくいので、僕は冒頭、長いですがけれども、簡単に話をさせてもらったのですが、そうした点を区市町村の教育委員会にも示してほしいと思っております。そうすると、彼らは彼らで、それは考えているこ

とがうちと同じだ、しかし、うちはこういうことがもっと大事だというふうに、いろいろ考えてやっていただける。それは区市町村の教育委員会のお考えでいいわけですが、けれども、その段階でもう少し区市町村の教育委員会に私どもの考えていることが伝わる努力をしてもらった方がいいのではないかと。終わってから説明してみても、はっきり言って、それは終わった後の話だと僕は思いますけれども、いかがですかという問い掛けです。

**【教育政策担当部長】** 先ほどお話がありました学力向上施策で、例えば小学校3年生から6年生まで一体どうやって教えていくかというのは、区市町村の代表の方も含めて、私どもで作っているベーシック・ドリルを更に進化させまして、例えば5年生になっても4年生の内容が身に付いていない。それは例えばドリルをさせて戻していくということをやります。では、人はどうなのかというところは、今回26人増と非常勤教員500人、これは区市町村と進めながら行うものでございます。ただ、確かに要求はどうかと言われると、その段階でも我々は財政当局に要求していきますぐらいしかなかなか言えないのが実情でございまして、そこは少し工夫の余地があるかと思っております。

**【教育長】** 多分国の概算要求のシステムと同じような形で、あれは割と早いのです。概算要求の中身が分かるのが8月末とか9月の初めぐらいです。東京都の場合、これが大体11月の初め、この時期です。これは11月7日で、竹花委員がおっしゃったような趣旨をやろうとすると、多分区市町村の予算要求に間に合わないのです。個々の施策というよりも全体として、東京都教育委員会として重点的にこういうことに取り組んでいこうと考えていますということで、国の概算要求もそうですけれども、財務省との折衝を経なければというのは、地方自治体はみんな分かっているわけです。でも、文部科学省はこういう要求をするのかというのを踏まえた上で、地方自治体もいろいろな組立てをしている。多分そういうことが必要なのではないかと御指摘だと受け止めたので、時期の問題も含めまして、何がどこまでできるか、財政当局との調整が必要な部分もありますので、検討させていただきたいと思っております。少し時間を頂ければと思います。

**【竹花委員】** 恐らく今は1年遅れで区市町村は考えるのだらうと思っております。それ

はそれで一つの在り方ですが、今、教育長がおっしゃったように、時代の流れが非常に速い中で、我々がやらなければいけないと思うことを、都、区市町村が一体となって、同じ方向に同じ時期に向かっていくということはすごく大事だと思いますので、今年度どういう工夫が可能かということをもっと御検討をお願いするとともに、来年度以降どうするかということについても検討してほしいと思います。私も6年もやっていて、こんなことを今頃言うのも変な話ですけども、そこをよろしくお願いしたいと思います。

【委員長】 私も似たような考えを持っていまして、東京都教育ビジョンが中心になることは確かですけども、東京都教育ビジョンはいろいろな項目が入り過ぎているのは仕方ない。あれはあれでいいと思いますけれども、あれを一まとめにして、例えば、今、キーワードは何かというと、国際化です。それから学力向上と、学校の安全というか、環境作りだと思います。環境作りといっても、先ほどのハードの面、耐震化の問題もあるし、いじめの問題もあるし、暴力の問題もあるし、体罰の問題もある。そういうものをひっくるめた大きな要素を抜き出して、それで御説明いただくと割合分かりやすいのではないかと。東京都教育ビジョンは項目があり過ぎて、どれを狙ったのかが分からない。ある意味で言うと、これは日本が最も不得意なところですよ。アングロサクソンは、まずそれを出してから細かくブレイクダウンしていくので、割合分かりやすいのですが、その辺の努力をしていったらいいのではないかと思います。

よろしゅうございますか。—— 〈異議なし〉 —— それでは、この件についても報告として承りました。

## 参 考 日 程

### (1) 教育委員会定例会の開催

11月28日(木) 午前10時

教育委員会室

### (2) 知事との懇談

11月15日(金) 午後2時10分

都庁内会議室



【委員長】 教育政策課長、今後の日程についてお願いします。

【教育政策課長】 今後の日程についてでございますけれども、次回の定例会は11月28日木曜日、午前10時より、ここ教育委員会室で行われます。

また、知事との懇談が11月15日金曜日、午後2時10分より、都庁内会議室にて行われる予定でございます。

以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。ほかに何かございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、引き続き非公開の審議に入ります。

(午前11時06分)